



「旗を持つ少年」(撮影：大道雪代)

展覧会会期

2015年8月8日(土)～12月6日(日)

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は8頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたび当館では8月8日(土)より京都の陶芸家、藤平伸(ふじひらしん、1922[大正11]～2012[平成24]年)を紹介する展覧会、「**夢つむぐ人 藤平伸の世界**」を開催いたします。

藤平伸は、京都の五条坂で操業する藤平陶器所(現・藤平陶芸)の次男として生まれ、30代より作陶家として活動し、深い精神性と滋味ある作風で高い評価を得ました。その作品は、実用の器からオブジェや陶彫、そして書画にいたるまで、伸びやかな形の中に、創作を楽しむ、人生の機微を謳うような豊かな詩情が漂います。当館では作家の生前、2004年に陶磁器の代表作を集め個展を開催いたしました。その後十年余りを経て、没後初の回顧展となるこのたびの展覧会では、陶磁器、水彩、書など仕事の全貌をご紹介します、改めてその魅力に迫ります。

展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

敬具

■ 展覧会概要 ■

- 展覧会名 「夢つむぐ人 藤平伸の世界」展
- 会期 2015年8月8日(土)～12月6日(日)
- 観覧料 一般1,000円/大学生800円/小中高生500円

リピーター割引実施!

会期中、2回目のご鑑賞の方は本展半券のご提示にて300円割引。※招待券は適用外。他の割引は併用できません。

- 主催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協賛 京葉ガス株式会社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル)
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(ただし9/21、10/12、11/23は開館)、
9/24(木)、10/13(火)、11/24(火)
- 展示内容 藤平伸作の初期から晩年にいたる制作から、陶磁器、水彩、ガラス絵、書、資料等、100点余を展示
※会期中展示替えを行います

展覧会内容に関するお問い合わせ

担当：高田(智美術館学芸員)

☎03-5733-5131

FAX: 03-5733-5132

■ 作家紹介、展示の見どころ ■

ふじひらしん ❖ 藤平伸のご紹介

① 生い立ち 藤平伸は、京都市東山区の五条坂に生れ、終生京都で活動した陶芸家です。五条坂は清水寺の参道に隣接し、古くより三条栗田口と並んで京都の陶磁器生産の中心として栄えた地域です。淡路からこの地に移り、1916年に藤平陶器所（現・藤平陶芸）を興した父の政一は、同地で活動を始めたばかりの河井寛次郎と親交を結んだ進取の気風に富んだ製陶家であり、「伸」という名前は寛次郎により名付けられたものです。幼い藤平は兄や従兄弟と共に河井家に入り出て寛次郎に可愛がられ、父や父の元で働く職人たちが日々製陶に勤しむ風景の中で育ちました。

② 作家としての歩み 陶芸の道に進む以前、青年期の藤平は病気と太平洋戦争を同時期に経験しています。1941年、19歳の時に結核を患い在学していた京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）窯業科を退学、戦争が激しさを増す中で、闘病は四年間に及びました。回復後、家業を手伝いながら絵画や銅版画を制作する時期を経て、陶磁器作品の発表を始めたのは30代以降と、陶芸家としては遅いスタートとも言えますが、31歳で日展に初出品し入選すると頭角を現し、35歳の時には日展特選を受賞するなど注目を受けるようになりました。その後は、1970年より京都市立芸術大学の陶芸科にて教鞭を取りつつ四十年以上に渡り日展へ出品、国内外の展覧会へも多く参加し、日本陶磁協会賞（73年、98年に同金賞）、毎日芸術賞（93年）を受賞するなど陶芸家として高い評価を受けています。一方で小品制作にも力を注ぎ、個展においては陶彫や陶板など、伸びやかで遊び心溢れる作品を発表しました。

③ 藤平伸の魅力 藤平作品の魅力は、深い抒情性を宿した所にあるといえるでしょう。それは常にアイデアを熟成させ、大らかに、静かに自己の表現を深めた作家の内面から生れるもので、見る者に不思議な余韻をもたらします。戦後、多くの作家を輩出した京都の陶芸界で、その独特の存在感は、詩情の陶芸家、陶の詩人とも評されました。大学教授など公的な仕事を担いながらも飄々と、軽やかに創作に向かっていった様子は作家の言葉からもうかがい知ることが出来ます。



生家の藤平陶芸で壁画を描く作家（82歳頃）
2004年3月（撮影：佐野春仁）

「陶器をつくっているとしばしば自分の予測しないようなことが出てきます。とつてもこんなことが起こるとは思うてへんです。世の中、予測できることが多いでしょ。予測できんからおもしろいのであって。ある大家は、予測できひんような仕事をしていることは芸術でないと言われました。またそれが世の中の通念でっしゃろ。しかしそうなら私らは芸術でなくてもいい思うてますわ。偶然にできてくることに対してすごく惚れ込みますな。」

「陶器はまたそういうことが非常に魅力です。」

（「詩情の世界を自在に遊ぶ」、元井美智子構成『NHK やきもの探訪』[第1巻] 1998年）

④ 作品紹介 鋭い線刻装飾が凄みを見せる初期の作品から、後期の味わい深い陶彫まで、作風は時期によって変化しますが、手捻りで作られる柔らかな形、繊細に変化する釉薬の色、ざっくりした土の質感など、藤平の作品はやきものならではの美しさを湛えています。また陶磁器に加え書や水彩、ガラス絵などにも生来の画才を発揮し、洒脱な作品を多く残しました。

❖ 展示の見どころ・作品のご紹介

日展出品作より初期から後期までの秀作を選び展示

藤平は1953年、31歳で初入選して以来77歳まで、四十年以上に渡って日展に作品を出品しています。日展に参加するようになり注目された1950～70年代の初期作から、ベテランとして熟練の表現を見せる後期の作まで、作品からは「陶芸家・藤平伸」の冴えた技量を感じることが出来ます。

「楼蘭吉祥」は1989年、前年に京都市立芸術大学を退官した作家が力を注いで制作した一点。階段状の蓋を持つ器形に繊細な装飾が施され、「楼蘭*」というタイトルに相応しいスケールの大きな世界観を表します。*シルクロードの古代都市



1) 「楼蘭吉祥」1989年
(第21回日展出品、東京国立近代美術館蔵)

柔らかな形・色調が魅力の茶陶作品

1993年、藤平は京都の茶道資料館で「茶陶に遊ぶ」と題した個展を開催します。魅力に惹かれつつも、敢えて踏み込まなかった茶の世界に「遊んでみる」ことを奨められ、地獄に落ちて悔いずとの思いで挑んだといいます。この時の展示では茶碗や香合など特に辰砂釉を用いた優品が多く発表され、以降の茶碗に取り組む契機となりました。93年の展示以来22年ぶりに、それらの作品をまとめて展示します。



2) 辰砂香合 1993年(茶道資料館蔵)、3) 辰砂茶盃 2002年

陶彫やガラス絵など、詩的な世界観を映した作品を紹介

80年代以降、藤平は童話や詩の世界に遊ぶかのように、子どもや動物、仏像などの陶彫や、掌に乗る小さな文房具をさかんに制作した他、ガラス絵など新たな表現にも挑戦し、抒情性に富んだ作風を展開します。芸術作品と大仰に構えるのではない、さりげない優しさとユーモアに満ちた作品世界は、多くの人を魅了しました。

本展では、会期中に展示替えを行いながら、藤平ならではの形の面白さ、魅力をもった作品を紹介します。



三好達治の詩「雪」から発想し、生まれた作品。柔らかな白釉に雪に見立てる。

4) 「太郎の雪」1998年

没後に見つかった「梁塵秘帖」の公開

藤平は作陶の合間の折々に水彩、水墨画を描き、新聞や雑誌に挿絵を提供したりもしていました。「梁塵秘帖(りょうじんひちょう)」は、作家が好んだモチーフ、記憶から醸造された心象風景などが詩や言葉と共に40葉ばかり納められた画帖(5冊に分冊)です。没後に見つかり、家族にも存在が知られていなかったことから、藤平がよく詩句を引用した平安時代の歌謡集『梁塵秘抄』にちなみ「梁塵秘帖」と名付けられました。



5) 「梁塵秘帖」より

❖制作の背景

藤平は独立後に自身の住居とアトリエを構えた後も、主な制作場所を実家である五条坂の藤平陶芸に置き、職人たちが物づくりを行う傍らで作陶を続けました。

その場所は京都市内では最大規模を誇る登り窯を有する製陶所で、戦後の昭和20年より藤平陶芸の所有となりますが、登り窯自体は明治42年頃に築窯されたものです。市内での登り窯の窯焚きが禁止され、ガスと電気の窯に移行する昭和43年以前には、藤平の初期の作品も、藤平陶芸の製品と共にこの登り窯で焼かれたと考えられます。窯と工房等の敷地は平成20年に京都市に移管されましたが、京焼の記憶、歴史を語る現場として登り窯を残したいという関係者の思いを反映して、窯道具や製品が残され、今も操業していた当時が伺われる、貴重な場所となっています。



撮影：南部裕樹（2008年）立命館大学、木立雅朗教授提供



左) 窯場には道具や製品が操業時のまま保管される（2015年撮影）／中) 敷地内の「うら場」と呼ばれる工房スペースで職人と共に制作する藤平伸（右側、撮影：佐野春仁）／右) 現在の工房の様子（2015年撮影）

藤平伸（1922～2012）略歴

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1922 | 7月25日、京都東山五条坂に生まれる。 | 1985 | 京都府文化功労賞受賞 |
| 1944 | 京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）窯業科入学。2年次に結核療養のため中途退学。 | 1988 | 大学を退官。京都市立芸術大学名誉教授となる。 |
| 1957 | 第13回日展にて特選・北斗賞受賞 | 1990 | 京都美術文化大賞受賞 |
| 1960 | イタリア・フィレンツェ国際陶芸展 | 1991 | 発動する現代の工芸 1945-1970・京都
京都市文化功労賞受賞 |
| 1962 | 第6回新日展にて菊華賞受賞 | 1993 | 毎日芸術賞受賞
藤平伸 茶陶に遊ぶ展（茶道資料館、京都） |
| 1968 | 現代陶芸の新世代展
陶芸の現在一京都から展 | 1995 | 梅原猛・藤平伸・三浦景生展 |
| 1970 | 現代の陶芸ヨーロッパと日本展
京都市立芸術大学、助教授就任。 | 1996 | 京都府文化賞特別功労賞受賞 |
| 1973 | 日本陶磁協会賞受賞。同大、教授就任。 | 1998 | 日本陶磁協会賞金賞受賞 |
| 1974 | 日展審査員となる。 | 2001 | 京都の工芸 1945-2000 展 |
| 1976 | 日本陶磁名品展（旧東独巡回） | 2002 | 作陶50周年記念展 |
| 1982 | 現代日本陶芸展（アメリカ・カナダ巡回） | 2004 | 詩情の陶彫 藤平伸展（パラミタミュージアム、三重）
藤平伸の芸術 追憶の詩展（菊池寛実記念 智美術館） |
| 1984 | 京都大学農学部水産研究所（京都府舞鶴）、陶壁制作 | 2012 | 2月27日、逝去 |

■ 展覧会関連行事 有料のイベントは先着順にて受付（智美術館 03-5733-5131）

❖ 講演会（観覧料のみ・聴講無料）当館 B1 階展示室ホールにて

藤平伸は作家として独立した後も、生家で、明治期築窯の登り窯を有する藤平陶芸の工房を終生の活動拠点として制作を行いました。五条坂の登り窯と京都の窯業、京焼について、研究者の木立雅朗氏にご講演いただきます。

「藤平陶芸の登り窯と京焼—藤平伸の背景」10月10日（土）15：00より

講師 木立雅朗 氏（立命館大学文学部教授）

❖ スペシャルギャラリートーク（観覧料のみ・聴講無料）当館 B1 階展示室にて

ご自身も作家として制作活動をされている、本展出品作家のご家族（長男、長女）のお二人をゲストにお迎えし、展示室にて作品を巡りながら、父・藤平伸の思い出や制作についてお話を伺います。

9月26日（土）15：00 藤平三穂 氏（陶芸家）

11月7日（土）15：00 藤平寧 氏（陶芸家）

❖ 子ども向け・陶芸ワークショップ「土と遊ぶ 夢をつくる」

8月15日（土）、16日（日）の2日間連続、14～16：30

講師：杉浦康益 氏（陶芸家）

定員 小中学生 12名様（事前お申込み制※小学生以下のご参加は保護者の同伴をお願いします）

参加費 4,000円（材料・焼成費、2日間の観覧料を含む）

❖ ナイトミュージアム 当館 B1 階展示室にて（お申込みは8月8日より受付開始）

閉館後の展示室を会場に作品と共に催しをお楽しみいただくユニークなイベントです。

① 朗読劇「ガリバー旅行記」（スイフト作、原民喜訳）

9月26日（土）18：30（18：20開場予定）

出演：軽井沢演劇部 [矢代朝子、山本芳樹（Studio Life）、岩崎大（Studio Life）、坂本岳大]

定員 60名様（事前お申込み制）

参加費 4,000円（観覧料含む。当日観覧券をお持ちの方は3,000円）

② ミュージアムコンサート

10月10日（土）19：00（18：45開場予定）

演奏：谷辺昌央（クラシック・ギタリスト）

定員 60名様（事前お申込み制）

参加費 3,000円（観覧料含む。当日観覧券をお持ちの方は2,000円）

❖ 特別鑑賞会「藤平伸の器で楽しむアフタヌーンティー」

展覧会をご覧いただいた後、レストラン、ヴォワ・ラクテにて展示作家の器を実際に使って午後のティータイムの時間をゆったりと過ごしていただく、一日だけの特別鑑賞会を開催します。

11月1日（日）14：00

定員 15名様（事前お申込み制） 参加費 3,500円（観覧料、喫茶代を含む）

❖ 学芸員によるギャラリートーク（聴講無料）

8月22日／9月5日、19日

10月3日、24日／11月14日、21日 …各土曜日 14：00

❖ 西洋館見学会（予約制・定員20名様）

9月12日（土）、10月17日（土）、11月28日（土） いずれも11：00時より

西洋館見学、美術館観覧料、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含めお一人様8,000円

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当：高田、島崎)

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年、撮影者* (明記のあるもの) を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	図1)「楼蘭吉祥」1989年 高さ43.0cm 東京国立近代美術館
<input type="checkbox"/>	図2)「辰砂香合」1993年 高さ5.8cm 茶道資料館
<input type="checkbox"/>	図3)「辰砂茶盃」2002年 1964年 高さ10.0cm (撮影:竹前朗)
<input type="checkbox"/>	図4)「太郎の雪」1998年 高さ23.0cm (撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	図5)「梁塵秘帖」より ※左右どちらか、ご希望の画像をご指定ください。

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2015年8月7日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います※。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。
※作家のご家族で陶芸家の藤平寧氏、三穂氏にもご同席いただく予定です。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場：菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分
・銀座線・虎ノ門駅：出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	